



氏名 (A.T) 英語英文学科 4 年次

参加期間：2023 年 8 月 4 日 ～ 9 月 3 日 (4 週間)

受 入 校： (学校名 North Geelong Secondary College School) (都市名 Geelong)

I. 教育実習について

日本語を学習している生徒のサポート、日本語の先生のアシスタントをします。主なサポート内容は、文法やひらがな、発音の確認でした。NGSC では、7～8 年生が日本語の授業を受けており、日本語の授業は先生 2 人と日本人の Education Supporter の方が担当していました。

具体的な授業内容について、7 年生は、自己紹介（名前は～です。～人です。～歳です。～が好きです。～が好きじゃありません。趣味は～です）ができるようになることが目標でした。生徒たちに好きなことや趣味などを聞いて、日本語での言い方を教えたり、スピーキングのテストに向けて発音の練習をしたりしました。カタカナ語の発音（オーストラリア、フットボール、ラグビーなど）が難しそうでした。8 年生は日本の祭りについて勉強していました。日本の祭りを 1 つ選び、それがどのような祭りなのかを説明するスライドを 15 枚ほど作成。スライドには、英文、ローマ字、ひらがなを記入します。（例：Nebuta festival is held in Aomori. Aomori de Nebuta matsuri wo okonaimasu. あおもり で ねぶたまつり を おこないます）生徒たちがスライドに書いたローマ字とひらがなを確認し、発音を教えました。9 年生は、百の位、千の位、万の位などの大きい数の数え方やお金の数え方について勉強していました。私は、ちょうど日本円を持っていたので、実物のお金を見せることができました。生徒たちは、お札が紙でできていること、1 円玉があること、50 円玉と 5 円玉に穴があることを不思議がっていました。また、7～9 年生だけではなく、日本語をオンラインで勉強している 11 年生に教えることもありました。

最後の週には、各クラスで 30 分ほど授業をする機会をいただいたので、祇園祭りや日本の学校について紹介しました。「祇園祭り」では、山鉾がどのように組み立てられているのか、どのくらい大きいのかを写真や動画を使用しながら説明しました。「日本の学校」では、時間割、給食、掃除、クラブ活動について説明しました。日本の学校について知った生徒たちは、学校が始まる時間が早いこと、2 時間目と 3 時間目の間に recess と呼ばれる休憩が無いこと、学校にお菓子を持っていけないことにとっても驚いていました。



私が授業をしたときの写真



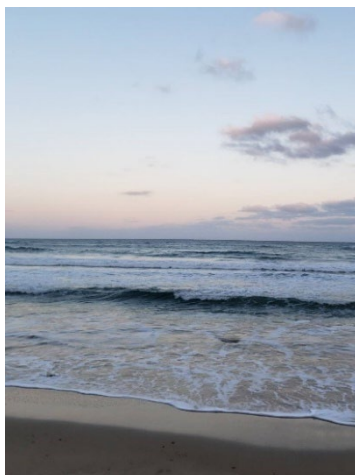
イベント

Casual Clothes Day：生徒たちは普段、制服を着て学校に来るのですが、この日は好きな服で学校に来ることができます。私服の生徒、ピカチュウの着ぐるみを着た生徒、スパイダーマンのコスプレをした生徒などがいました。また、生徒たちだけではなく、先生方もコスプレをすることができるので、ハリーポッターのコスプレをした先生、赤ずきんちゃんのコスプレをした先生もいました。普段の学校とは違った雰囲気になり、楽しかったです。私は日本語の先生と一緒に浴衣を着て授業を行いました。皆さんに素敵ねと褒められて嬉しかったです。

姉妹都市との交流：8月11日～17日に日本の姉妹都市から中学生が来ました。彼らが滞在している間、教室の案内、授業の付き添い、遠足の同行を行いました。また、日本の生徒と NGSC の生徒と一緒にネットボールや AFL もしました。生徒たちの交流をサポートできて良かったです。

Ⅱ. ホストファミリーについて

NGSC の日本語の先生のお宅にお世話になりました。ホストファミリーと世界の歴史、政治、教育についての話をしました。一緒に住んでいるおばあちゃんもかつて先生だったので、特に教育に関する話をたくさんしました。私も教職を履修しているので、日本とオーストラリアの教育を比較したり、なぜ教育が重要であるのか、どのように生徒を授業に集中させるかなどを話し合ったりしました。また、オーストラリアの歴史、先住民についても教えてくれました。皆さんの知識が豊富だったので、圧倒されてしまいました。ホストファミリーだけではなく学校の先生方にも日本について聞かれることが多かったので、日本の歴史や教育、観光地について知っておくといいと思います。他にも、おばあちゃんは毎晩「今日は何を学んだの?」と聞いてくれたので、その日の1日の出来事や学びも話しました。そして、ホストファミリーは毎日美味しいご飯を作ってくれて、休みの日には動物園や観光地に連れて行ってくれました。カンガルーや羊、ロバに触ったこと、オーストラリアの固有種たちに会ったこと、メルボルンでミュージカルを見たこと、High Tea で美味しい紅茶を飲んだことなど、多くの思い出ができました。



Great Ocean Road で



Cunningham pier で



Healesville Sanctuary で

Teaching Japanese as a Foreign Language



Ⅲ. 参加希望者へのアドバイス

メモ用紙を持って行くこと：私は過去の体験記を参考にしてメモ用紙を持って行きました。生徒たちがローマ字、ひらがな、漢字を間違えて書いているときに、どこが間違っているのか、どのように修正すれば良いのかを紙に書いて渡します。言葉だけでは十分に説明できないことが多かったのですが、メモを見せながら説明すると生徒たちはすぐに間違いを理解していました。

どんな授業をしたのかを簡単に記録しておくこと：毎日授業ごとに記録を取っていました。稀に先生が授業に来られないときがあり、その時は予め与えられた課題を行います。あるとき、動画を見て問題に答えるという課題があったのですが、動画を見るためのパスワードを誰も知らず、動画を見ることができませんでした。そのため、生徒たちは何もすることがないという状況になってしまいました。そこで、私は前回どんな授業をしたのかを確認し、「たちつてと」を学習したと記録していたので、続きの「なにぬねの」の授業を行いました。記録を取っていたおかげで臨機応変に対応することができました。また、先生方の授業を見て、この方法良いなと思ったときに記録しておくこと、今後、授業をする立場になったときに役立つと思います。

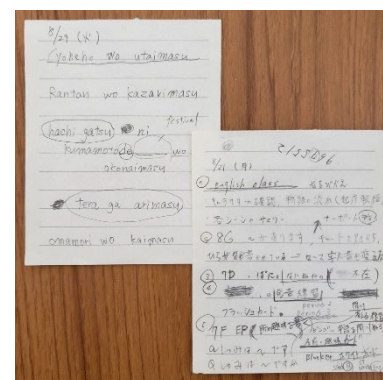
生徒たちと積極的に話すこと：授業中は授業に関係ないことを話してはいけないと思い、生徒に話しかけることは控えていたのですが、ES の先生が「授業中も生徒たちに話しかけていいよ、みんな喜ぶよ」と言ってくださったので、授業が始まったときには「おはよう」「こんにちは」と日本語で話しかけ、授業中でも声をかけるようにしました。すると、生徒たちのほうから、週末は何をしたのか、オーストラリアの生活はどうか、日本について知りたいなどたくさん話しかけてくれるようになりました。実習が始まって1週間くらいは、私も生徒たちもお互いに緊張していたのですが、徐々に打ち解けていき、授業で分からないことがあればすぐに私を呼んでくれるようになり、廊下ですれ違った時も話しかけてくれるようになりました。

NGSC での私のスケジュール

	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
Period 1		Year 7 (H class)	Year 8 (G class)	Year 8 (G class)	Year 7 (F class)
Period 2	Year 8 (G class)	Year 7 (H class)	Year 8 (H class)	Year 9	
Recess					
Period 3	Year 7 (D class)		Year 8 (D class)	Year 7 (H class)	Year 8 (D class)
Period 4	Year 7 (D class)	Year 8 (D class)		Year 7 (B class)	Year 7 (D class)
Lunch					
Period 5	Year 7 (F class)	Year 7 (B class)	Year 9	Year 8 (H class)	Year 8 (H class)
Period 6	Year 7 (F class)	Year 7 (B class)	Year 9		

Period 1	8:58 – 9:47	Period 3	11:01 – 11:50	Period 5	13:32 – 14:21
Period 2	9:47 – 10:36	Period 4	11:50 – 12:39	Period 6	14:21 – 15:10
Recess	10:36 – 11:01	Lunch	12:39 – 13:32		

授業の記録



空きコマは、他の授業を見学させていただいたり、授業の準備をしたりしました。

Teaching Japanese as a Foreign Language



氏名（ Y.M ）

国際教養学科

4 年次

参加期間：2023 年 8 月 4 日 ～ 9 月 2 日（4 週間）

受 入 校：（学校名 Balcombe Grammar school）（都市名 Mount Martha ）

I. 教育実習について

私が教育実習に行った Balcombe Grammar School は 保育園から高校生まで日本語を勉強している学校でした。日本語の先生は 2 人いらっしゃって 1 人が小学校部を、もう一人は高校部を中心に担当されていました。この学校では小学校（1~6 年生）は週 1 回の語学の授業があり、中学校（7~9 年生）は週に何回かあるという形でした。高校生（10~12 年生）は大学受験で日本語のスピーキングテストがあるということだったので、高校生の会話練習を中心にお手伝いしていました。授業は多い時で 1 日 6 時間、少ない時で 2 時間でした。

私は保育園児（primary school）から 12 年生までのすべての授業に入っていました。保育園ではウサギとカメの絵本を読み、ぬりえなどを活用しながら、動物の名前を覚えたり、「ゆっくり」「はやく」などの絵本に登場する言葉を覚えたりしていました。1, 2 年生は海の生き物というテーマで「さかな」「さめ」「いるか」などの名前を学習していました。また、覚えた単語を使ってアクティビティをしていました。私がラッコをとて好きだということもあり、1 年生にラッコについてのプレゼンテーションをしました。「何を食べるの?」「どこに住んでいるの?」などとても興味を持ってくれてうれしかったです。3~6 年生はひらがな・カタカナを習い始め、日本語の会話を練習し始めます。例えば、「おなまえは?」「今は何時ですか?」などの文章を習い、実際にクラスメイトと会話練習していました。ひらがなやカタカナがどう違うのかが分からなかったり、ひらがな・カタカナの書き順で苦戦している子が多くいました。そのような苦手をなくせるように、授業中にクラス内を歩き回って困っている子がいれば声をかけて手伝っていました。

中学校部（7 年生~9 年生）は元気な子が多く、授業中も話すことをやめなかったり、モノを投げたりしていたり少し大変な時がありました。初めは、話を聞いてもらえなかったことも多くありましたが、最後には毎日挨拶してもらえくらい仲良くなることが出来ました。中学校のクラスでは買い物について使う日本語を習っているときに日本のショッピングセンターやレストランのことについてプレゼンテーションしました。日本とオーストラリアの商品の違いや値段の違いなどに関心を持ってくれました。



日本の高校生にあたる 10~12 年生は日本の旅行やアルバイトのことなど少しレベルの高い内容を学習します。10 年生では、日本でアルバイトの面接を受けるという設定で私が「時給はいくらがいいですか?」「なぜこのアルバイトをしたいですか?」などの質問をし、生徒が答えるといったスピーキング練習をしていました。

11 年生のクラスでは日本の高校とオンラインクラスをすることがありました。お互いにオーストラリアと日本についてのクイズを考え、出し合っていました。12 年生は大学受験のためのスピーキングテストがあるため、会話練習を 1 対 1 でひたすらする感じでした。



↑ 11 年生の日本の高校とのオンライン交流会

Ⅱ. ホストファミリーについて

私がホームステイをしていたのは Balcombe Grammar School の日本語の先生の家でした。家には先生と 5 歳の娘さんのほかにワーキングホリデー中の方が 2 人滞在していました。朝はホストの先生と週末にはホームステイ先近くで有名なワイナリーに一緒に行ったり、ワーホリ中の方と一緒にメルボルンに遊びに行ったりしました。

ホストの方は非常に料理が上手でオーストラリアならではの料理だけでなく日本料理も作ってくださいました。オーストラリアに到着した日にはだしを使った鍋料理を食べました。毎日学校から帰ってきた後に食べる夕ご飯が毎日楽しみでした。遊びに行くだけでなく、家にいら



っしゃる皆さんとゆったりお話しすることも多くありました。趣味や今日の出来事をお茶を飲みながら話したり、ワーホリのお話を聞いたりしました。非常に楽しく、貴重な時間を過ごすことが出来ました。



↑ 非常に海がきれいな街です



↑ メルボルンに遊びに行きました。

Ⅲ. 参加希望者へのアドバイス

私は大学卒業が近くなってきて、卒業前に何かできないかと考えたことがきっかけで4年生の時にこのプログラムに参加しました。プログラム参加前は日本語を本当に教えることができるか、現地の方々と仲良くできるかなど不安は多くありましたが、参加した後は充実した日々を送ることが出来てあっという間の1カ月でした。

私が大事だと思ったことは出発前に現地の学校のことや持ち物について調べるということが非常に重要だと思いました。私の学校ではパーカーやジーンズなどのカジュアルな服装ではなく、オフィスカジュアルのような服装を求められました。これは私の方から現地の先生に尋ねて分かったことでした。小さなことでも不安なことは全て確認する方がいいと思います。また、出発前に自己紹介や私の町についてのプレゼンテーションを用意してほしいと現地の先生から連絡をいただきました。同じ時期にプログラムに参加した友人は Primary school の子供たち向けに折り紙を用意していました。それぞれの学校で先生が私たちに求めていることも違うため出発前に現地の先生と連絡を取り合って授業内での役割を確認し、事前準備できるものを確認しておくと思います。

また、1カ月という限られた期間ですので、日本語を教えに行くという目的も忘れずに、休みの日などにはオーストラリアを思いっきり満喫してください！